



ご自由にお持ち帰りください。

Vol.

71



〒731-0293 広島市安佐北区可部南二丁目1-1
TEL: 082-815-5211 (代表)

<http://www.asa-hosp.city.hiroshima.jp>

新型コロナウイルス感染症 収束への切り札ワクチンについて



副院長
永田信二

広島市で令和2年3月7日に新型コロナウイルス感染者が確認され1年半近くになります。その間、「緊急事態宣言」発令によりわれわれの日常生活は一変し現時点で新型コロナウイルス感染症の流行を収束させる切り札はワクチン接種です。

令和3年8月18日現在全国における接種状況は1回目42.54%、2回目32.73%、広島県では1回目42.97%、2回目32.25%。また、全国における65歳以上の高齢者接種状況は1回目88.66%、2回目85.09%、広島県では1回目88.77%、2回目84.91%です。広島市から順次接種券が届いていると思いますがワクチン接種希望者の方はもう接種をお済みでしょうか。接種に悩まれている方がかかりつけ医をお持ちの方はご相談されてはいかがでしょうか。あくまでも私個人の意見ですがワクチン接種後新型コロナウイルス感染症発症の高齢者の重症化が減ったように感じております。



安佐市民病院における新型コロナウイルスワクチン接種体制ですが令和3年3月初旬から医療従事者等を対象に始め、その後高齢者等通院患者、住民に広げ6月5日からの土曜日、日曜日は集団接種会場となっています。接種会場は本院のWAPセンター（体育館）で新病院建て替え後は地域開放スペースになります。出務する医療従事者は安佐医師会医師、看護師、広島県看護協会看護師、安佐薬剤師会薬剤師、安佐市民病院医師、看護師、事務職などで対応しています。接種日は平日月曜日から金曜日までと週末の土曜日、日曜日で詳細は接種券と同時にお手元に届きましたご案内をご参照のうえお申し込み下さい。平日は外来診療を行いながらワクチン接種を行っておりますので待合スペースが少なく皆様にご迷惑をおかけしており大変申し訳ございません。

ワクチンの副反応は接種部位の痛み、発熱、頭痛、全身倦怠感などがあり接種翌日がピークで3-4日目までには自然軽快します。副反応は1回目より2回目の方が出やすく当院医療従事者の副反応出現率は1回目1.6%、2回目15.4%でした。

新型コロナウイルスワクチン予防接種は「自分を守ること」と「家族、地域、社会を守ること」の役割がありますので1人でも多くの方に受けて頂ければと思います。

もちろんワクチン接種後も引き続き手洗い、マスク、3密回避などの感染予防対策は必要です。1日でも早く日常が戻ってくることを願っております。



小児科主任部長 荒新 修



皆さん、こんにちは。季節の小児感染症シリーズで始まった私のコラムは第7回になりました。今日は中耳炎のお話です。

小児科医になり、はじめに習ったことは、抗菌薬投与前に細菌培養を下さい、耳をみておきなさい（中耳炎に注意下さい）ということでした。

小児の中耳炎といっても小児科医の場合、抗菌薬を使用する急性中耳炎のことに限られ滲出性中耳炎についてはほとんど念頭においておりません。私自身が小児期に中耳炎で病院通いを数年続けておりましたので中耳炎については関心が高かったと思います。耳痛でもだえ苦しんで泣いていた記憶もあります。そのためか最初に習った「耳をみておきなさい」という先生の言葉は私には受け入れやすいものでした。

若い頃の経験です。小児科の病棟や外来には耳鏡が置かれていてよく使用しておりました。しかし小児の鼓膜というのは、耳垢があり見えない患者さんは珍しくありません。そのため耳垢を除去するピンセットもあるのですが、研修医のころ出張先の小児科外来で耳垢を除去しようとしたところ、患者さんの固定が不十分で体動により外耳道を傷つけてしまいそのまま耳鼻咽喉科へ行っていただいたことがあります。

それ以来、私は中耳炎に注意は払っていますが、患者さんの耳垢を除去することはやめました。

もう一つの経験ですが、時間外での患者さんについては一晩凌げればよいとの考えから時間外では耳を見ないことにしていた1か月程度の期間がありました。ある晩に発熱・下痢のある不機嫌な患者さんが受診されました。不機嫌の理由は下痢のためだろうと思い診療を終えましたが、1時間程度で耳介聳立という状態となり再診されました。耳鼻咽喉科の先生によると乳突洞炎という急性中耳炎が波及したものでした。それ以来、夜でも患者さんの耳を診るようになっています。実は急性中耳炎から乳突洞炎になることは、私が子供のころに通院していた耳鼻咽喉科の先生が患者さんに常々おっしゃっていたことでした。当時、その医院では患者さんがいつも大勢いて今のようにプライバシーもなく、他の患者さんの診療を順番待ちの子供たちがそばで取り巻いて眺めていたものでした。今となっては不思議な光景です。

中耳炎は小児科医にとって念頭に置くべき疾患ですが、耳鼻咽喉科の先生の方が、耳垢除去の技術、体の固定（安全対策）、そして何といても中耳炎の診断精度、いずれも優れていると思っております。

安佐市民病院の建替えの近況報告(その9)

安佐市民病院整備室長 中 泰弘

安佐市民病院の建替えに関する工事は、主要建設工事が進められており、病院棟本体については、外壁材の取り付けやタイルの貼り付けなどをほぼ終え、順次足場を撤去し、外観が見えるようになってきました。

内部については、引き続き、間仕切り壁や天井の下地の施工、それらに先立った設備配管やダクト、配線などの施工を各工事受注者が順序を調整しながら行っています。

また、病院棟本体と道路を挟んで立つ附属棟を結ぶ横断橋の工事、そして病院で使用する水源、上水用受水槽などの工事も始まっています。新病院は、「災害時の“いざ”に対応できる病院づくり」として、ライフラインの確保を謳っています。今回はこの上水用受水槽などライフラインに係る設備の紹介をします。

上水用の受水槽は、丸形で直径約7メートル、高さ約4

メートルの大きさで、3日分の水の容量を確保するとともに非常時には井戸水の利用も計画しています。また、使用した水の排水についても建物内で約10日分の貯留ができる緊急排水層を設置します。さらに、電気は72時間以上の運転が可能な非常用発電設備を設置します。

新病院はこれらの設備を設置することにより、災害時であっても機能を止めることのない「災害時の“いざ”に対応できる病院」となります。

新病院は、来年春の開業を目指しています。広島市の北部地域、広島県の北西部地域等の高度・急性期医療を担う病院として、皆様のご期待に応えられるよう、これからも、病院スタッフが丸となって準備を進めてまいります。

安佐市民病院の建替えの状況については、これからも随時、掲載させていただきます。

糖尿病教室について

みなさま、日本には糖尿病患者さんがどれくらいいるかご存知でしょうか？日本の糖尿病患者さんは、予備群も含めると約2,000万人といわれています。日本の人口が約1億2,000万人ですので、6人に1人が糖尿病もしくは糖尿病予備群の患者さんだといわれております。つまり、周りを見渡せば必ず糖尿病患者さんがいるということになります。それほど糖尿病は、みなさまにとっても非常に身近な病気の一つであるのではないのでしょうか。

糖尿病はみなさまがご存知の通り、食事、運動、薬物などの日常のケアが非常に重要となります。これだけを聞くと、どれだけ我慢しながら生きていかなければいけないのかと不安になるかもしれません。また、よく周囲の人や医療者から聞くとと思いますが、「合併症」というものが糖尿病患者さんの不安をより強くさせているのではないかと思います。確かに、合併症は怖いものであるかもしれませんが、食事などの療養は一生続けていかなければなりません。しかし、糖尿病に対する知識が何もない、または、間違えた知識を持ってしまっていると、この糖尿病の療養というものが、得体の知れぬ怖いものになってしまい、療養を送る上で大きな障壁となってしまうのではないかと思います。逆に言えば、糖尿病療養に対する正しい知識を持っていれば、安心して療養を送ることにつながるのではないのでしょうか。

安佐市民病院では、糖尿病患者さんや家族の方が、糖尿病についての正しい知識や技術を

糖尿病看護認定看護師

山崎 優介



学ぶことができるように、糖尿病教室を実施しております。月曜日から金曜日、15時から（木曜日のみ16時から）毎日行っており、1週間この教室に参加すると、糖尿病療養について一通り学ぶことができるものとなっております。教室の内容としては、病気についての基本的な知識を学ぶものから、日常生活やセルフケアについて具体的な療養方法について学ぶものまであります。少人数のグループで行うため、書籍やメディアなどを見てもわからなかったことなどを直接医療者に聞いたり、グループで素朴な疑問について話し合ったりすることで、楽しく学ぶことができる内容となっております。私たち看護師が行うフットケアの項目では、ただ足のケアについての知識を得るだけでなく、足の観察や靴の履き方を実際に参加者のみなさまと実施することで、参加者の方がすぐにやってみたいと思えるような内容に工夫をしています。また、教育資料である「糖尿病のしおり」も当院で自作しており、イラスト入りで誰が見てもわかりやすい内容に工夫しております。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、残念ながら教室を中止しております。現在のところ再開の目処は立っておりませんが、いち早く教室を再開して、みなさまと一緒に学ぶことができることを楽しみにしております。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

糖尿病教室のご案内

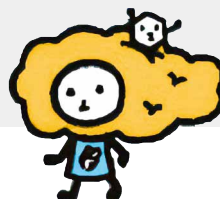
月「フットケアについて」「合併症について」

火「運動療法について」「薬物療法について」

水「糖尿病検査について」「日常生活について」

木「食事療法について」

金「糖尿病とは」



DIABETES TEAM
Hiroshima City Asa Citizens Hospital



問い合わせ先：内科外来

がん看護専門看護師です

がん看護専門看護師の 6つの役割

実践

個人、家族及び集団に対して
卓越した看護を実践します。

相談

看護職を含むケア提
供者に対しコンサル
テーションを行います。

調整

必要なケアが円滑に行われるために、
保健医療福祉に携わる人々との
コーディネーションを行います。



がん看護専門看護師
長屋 由起子

倫理 調整

個人、家族及び集団の権利を
守るために、倫理的な問題や
葛藤の解決をはかります。

教育

看護職に対しケアを向上
させるための教育的な役
割を果たします。

研究

専門知識及び技術の向上並びに
開発をはかるために実践の場
における研究活動を行います。

私はがん相談支援センターに所属しがん看護専門看護師として活動しています。がん看護専門看護師は、がんによる身体のつらい症状をとらえ、軽減できるような治療やケアの提案をし、告知や治療・療養場所の選択時における気持ちのつらさや苦しさに対して、医療ソーシャルワーカーなど多職種と連携し、がん患者さん・ご家族のしんどさの解決に努めています。がん患者さん・ご家族がご自分の人生を自分自身で考えながら過ごせるよう、多くのスタッフと共に考え対応致します。ご相談のある方は、お近くのスタッフに声をかけ下さい。または、がん相談支援センターにご相談下さい。がん患者さん・ご家族も高齢者が多い地域において、その人がその人らしく治療を選択し人生を全うできるような支援を共に考えていきたいと思っています。宜しくお願い致します。

がん支援総合センターとは

当院では、地域の皆さんのがんに関する不安や悩み、疑問などにおこたえするために、がん相談窓口を開設しています。がんに関する情報をお伝えし、一緒に考え、心配事を解消するためのお手伝いをいたします。相談内容の秘密はお守りいたします。安心してご相談ください。



がんサロン

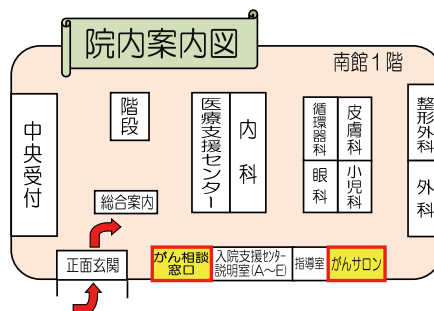
各専門職との連携



ご相談の内容により、各専門職と連携を取って
対応いたします。

地方独立行政法人 広島市立病院機構
広島市立安佐市民病院
がん相談支援センター

広島市安佐北区可部南二丁目1番1号
082-815-5533 (内線: 2268)



連携医療機関のご案内

日頃より大変お世話になっている
地域の先生方をご紹介します。

西山整形外科・胃腸科

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00～12:30	○	○	○	○	○	○
午後 15:00～18:00	○	○	△	○	○	△

※休診 水土 午後/日祝



院長 西山賢治 先生

〒739-1414

広島市安佐北区白木町秋山2325-1

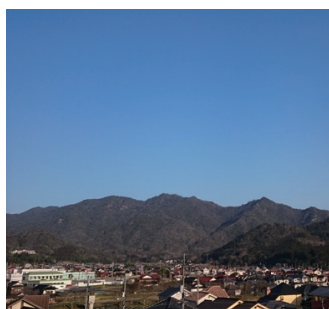
TEL082(828)1223

白木町は広島市の北東端に位置し、町名の由来となった標高889.9mの白木山のほか、パラグライダーなどのスカイスポーツの拠点となっている神ノ倉山や、近年雲海で有名になった荒谷山などの山々が連なっています。近郊農業の米や野菜づくりが盛んで、自然豊かな土地です。

当院は1985年先代が開業、2009年に継承しました。少子高齢化の進むなか、包括支援センターや訪問看護ステーション、各種介護施設と密に連携をとりながら、在宅医療をはじめ、学校医、保育園医、産業医、健診、予防接種などおこない、子どもからお年寄りまで、地域のみんなが元気になる医療を心がけています。腰椎と大腿骨で骨密度を測定するDEXAという装置を導入し、骨粗鬆症の診断と治療、ならびに痛みの治療に力をいれています。

安佐市民病院の先生方には日頃より高度専門治療や診断、救急診療など、いつも大変親切にご対応いただき、深く感謝しており、また心強く感じております。また安佐市民病院退院時の在宅療養への移行のスムーズさは特に素晴らしく、医療スタッフの皆様方のご尽力に大変感謝しております。

引き続き地域医療に貢献できるようスタッフと共に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



患者の権利



広島市立安佐市民病院は、患者の権利に関する「リスボン宣言」を擁護し、患者の最善の利益のために安全で質の高い医療を目指します。

- 1. 良質の医療を受ける権利**
良質で適切な医療を公平に受ける権利があります。
- 2. 情報を知る権利**
ご自身の病状や治療等に関して十分な説明と情報を得る権利があります。
- 3. 自己決定の権利**
ご自身の健康状態について十分な説明を受け、ご自身の自由な意思で検査や治療方法を選ぶ権利があります。
患者が未成年者である場合や患者に意識がない場合などご自身で意思決定ができないときは、法定代理人（保護者、成年後見人）やご家族と相談して治療方法を決定します。その場合でもできるだけ患者ご本人の意思を尊重します。
- 4. 選択の自由の権利**
病院あるいは保健サービス施設等を自由に選択し、変更する権利があります。
セカンド・オピニオン（別の医師の意見）を求める権利があります。

- 5. 健康教育を受ける権利**
健康的なライフスタイルや、疾病の予防および早期発見等に関する情報を与えられた上で自己選択（インフォームド・チョイス）できる権利があります。
- 6. 個人情報・プライバシーが守られる権利**
医療従事者が医療上知り得た個人情報は保護され、プライバシーが守られる権利があります。
- 7. 尊厳が守られる権利**
個人として尊重され、尊厳を保ち安楽に終末期を迎えるためのあらゆる可能な支援を受ける権利があります。

お願い

当院で安全で質の高い医療・看護が適切に受けられるためご協力をお願いします。

- ・ご自身の健康に関する情報をできる限り正確に伝え、医療従事者と共同して診療に参加してください。
- ・快適な療養環境の維持に協力をお願いします。
- ・医療安全の実践に協力をお願いします。
- ・病院の規則を守ってください。
- ・他の患者の療養に支障を与えないように配慮をお願いします。
- ・医療人の育成に協力をお願いします。
- ・現在考えられる安全な臨床医学の範囲を超える要求には応じられないことをご告知ください。



室内熱中症に要注意



総合診療科主任部長
原田 和歌子



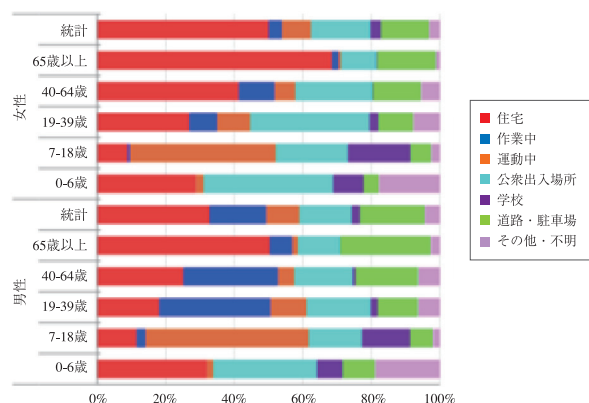
熱中症ときくと、みなさん、どんなイメージがありますか？
おそらく、「炎天下で遊んでいて、あるいは作業をしていて脱水になり、もうろうとして倒れる」そんなイメージではないでしょうか。

はい、その通り！

正確には、高温多湿な環境下で、体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体温調整機能がうまく働かなかったりすることにより、体内に熱がたまり、筋肉痛や大量の発汗、さらには吐き気や倦怠感などの症状が現れ、重症になると意識障害などが起こることです。

図1は全国の熱中症の年齢別・発生場所を示したものです。子供は炎天下での運動中や学校で起きることが多く、働き盛りの男性は作業中です。しかし高齢者や成人女性ではどうでしょうか？実は、自宅で起きることの方が多いのです。

図1 年齢階級別・発生場所別患者数割合(2015年)



7～18歳は男女とも運動中、学校、
19～39歳、40～64歳の男性は作業中、自宅
40～64歳の女性、特に65歳以上の男女は 自宅、といった特徴

当科でも以前、脱水症・熱中症で救急受診された方の発生場所を調査したことがありますが、半数以上が自宅で発生していました。

それでは、一体どんなことに気をつけたら良いのでしょうか。

- 室内ではエアコンを使用しましょう。
(コロナ禍ではエアコンをきらないで、こまめに換気をしましょう。)
 - 戸外にでた際に高温、多湿の環境では、日陰を選んだり、涼しい服装、日傘や帽子をつけたりしましょう。
 - コロナ禍にあっても、屋外で人と2m以上離れている時はマスクをはずすことは可能です。
 - 少しでも体調が悪くなったら、涼しい場所へ移動しましょう。
 - 日頃から睡眠や適度な運動といった習慣、また体調が悪い時は無理せず自宅で静養するといった体調管理が大切です。
 - 水分摂取については、喉が渇いていなくても、1日あたり1.2リットルを目安に(500mlペットボトルで2.5本、コップ6杯)こまめに水分補給をしましょう。
- ご高齢の方では介護の方が食事に汁物を追加してみたり、お茶の時間をとってみたりするのもいいですね。
- コロナ禍にはありますが、皆様が今年も暑さを乗り切って健やかな夏が送れますことを祈っています。

参考:厚生労働省 令和3年度の熱中症予防行動

安佐市民病院の理念と基本方針

理 念

- ・愛と誠の精神をもって医療を提供します。
- ・地域の基幹病院として高度の医療・ケアを行います。

基本方針

1. 患者さまの立場を尊重し、理解と納得にもとづいた医療を行います。

2. 安全な医療と快適な療養環境の提供に努めます。
3. 地域と連携し、地域医療、救急医療、トータルケアの水準の向上に努めます。
4. 最新の医療にとりくみ、医療・医学の進歩に貢献します。
5. より良い医療サービス提供のため、健全な病院運営に努めます。